

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による達成度について

1. 分析の手法

「第8期介護保険事業計画における介護予防等の「取組と目標」設定の手引き」（令和元年10月／厚生労働省）の内容に沿って、主に第7期計画策定時の調査（以下、「前回調査」という）結果と第8期計画策定時の調査（以下、「今回調査」という）結果を比較しながら、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下、「ニーズ調査」という）結果を活用した指標設定を検討することとします。

2. 分析の観点

ニーズ調査結果から得られるデータを用いて指標を設定することにより、計画で設定する目標の達成度をはかるにはどうすればよいかという観点から分析を行います。

ここでは主に、大目標（高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける）、中目標（高齢者が活動的に暮らすことができている、口腔・栄養等の身体的状態が保たれている、認知症になっても自分らしく地域で暮らしていける）に焦点を当てて分析を進めます。

【大目標】 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける

- ニーズ調査結果から、現行計画の基本方針である「地域包括ケアシステムの深化・推進を目指すとともに、高齢になっても生きがいをもって、また、住み慣れた地域で適切なサービスを受けながら暮らせる環境づくりを目指す」ことに関する達成度をはかってみることとします。

【中目標1】 高齢者が活動的に暮らすことができている

- ニーズ調査結果から、主として現行計画の基本方針1-1（高齢者の生きがいづくりと介護予防の推進）、1-2（高齢者を支える環境の充実）についての達成度をはかってみることとします。

【中目標2】 口腔・栄養等の身体的状態が保たれている

- ニーズ調査結果から、主として現行計画の基本方針1-1（高齢者の生きがいづくりと介護予防の推進）のうち、(3)高齢者の健康づくりの充実の項に関する達成度をはかってみることとします。

【中目標3】 認知症になっても自分らしく地域で暮らしていける

- ニーズ調査結果から、主として現行計画の基本方針2-2（認知症施策の推進）についての達成度をはかってみることとします。

※ニーズ調査結果について、前回調査は一般高齢者（要支援・要介護認定者を除く）で実施していたため、今回調査についても一般高齢者のみの結果をもとに分析を行います。

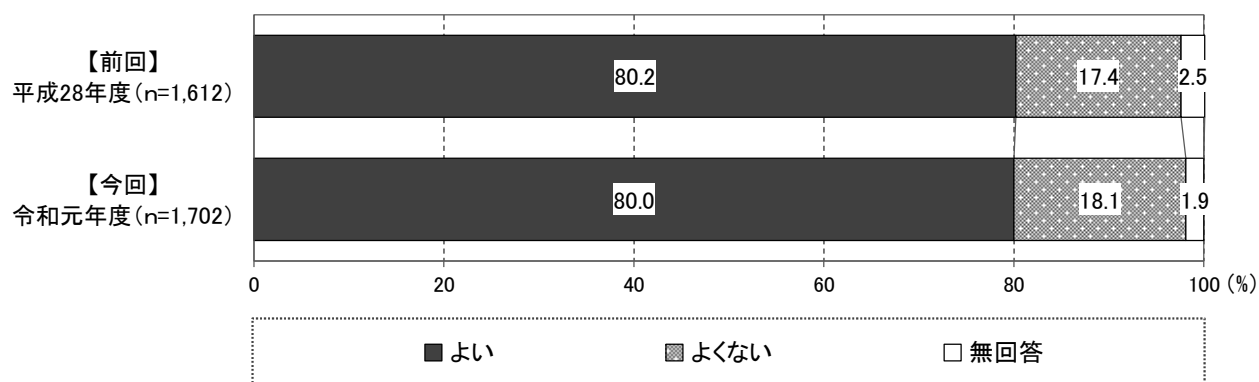
3. 分析結果

(1) 【大目標】 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるの達成度

【大目標】 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるの達成度をはかるため、ニーズ調査における次の指標を見ておきます。

①主観的健康観が向上した高齢者の割合

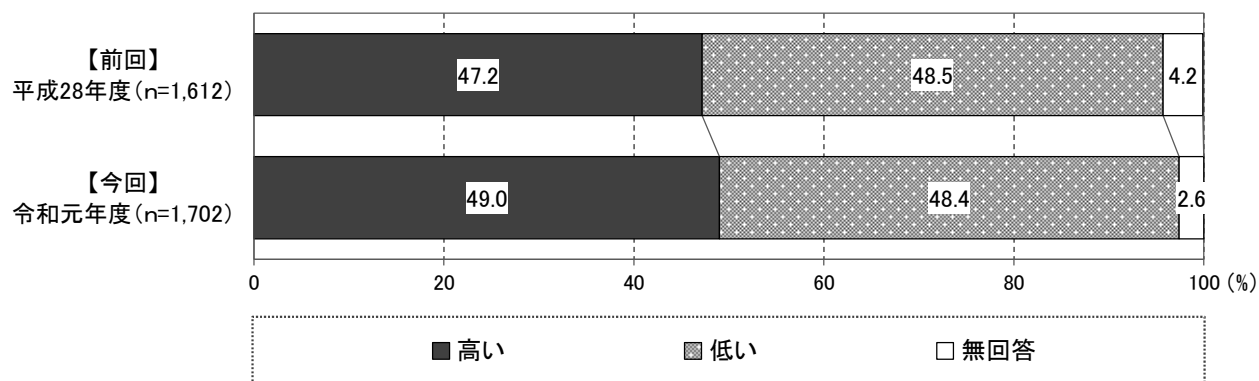
■ 「自分自身の健康状態をどう思うか」の割合（前回：問7（1）、今回：問7（1））



「自分自身の健康状態をどう思うか」の割合を見ると、前回調査と今回調査ではほとんど変わらない結果となりました。

②主観的幸福観が向上した高齢者の割合

■ 「自分がどの程度幸せと思うか」の割合（前回：問7（2）、今回：問7（2））

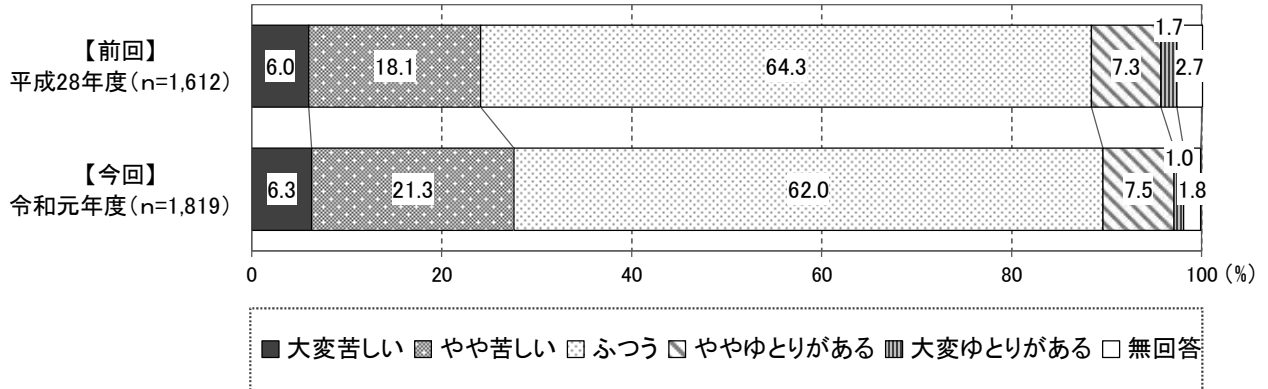


「自分がどの程度幸せと思うか」の割合を見ると、前回調査より今回調査は1.8%の増加となりました。

③主観的経済観が向上した高齢者の割合

■「暮らしの状況を経済的にみて、どう感じるか」の割合

(前回：問1(4)、今回：問1(3))



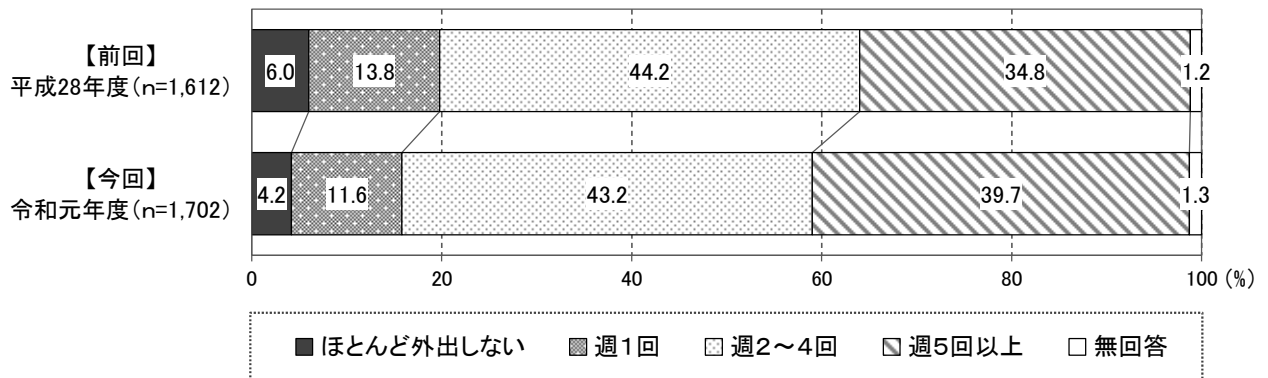
「暮らしの状況を経済的にみて、どう感じるか」の割合を見ると、「大変苦しい」+「やや苦しい」では、前回調査より今回調査は3.5%の増加となりました。

(2)【中目標1】高齢者が活動的に暮らすことができているの達成度

【中目標1】高齢者が活動的に暮らすことができているの達成度ををはかるため、ニーズ調査における次の指標を見ておきます。

①週1回以上外出している高齢者の割合

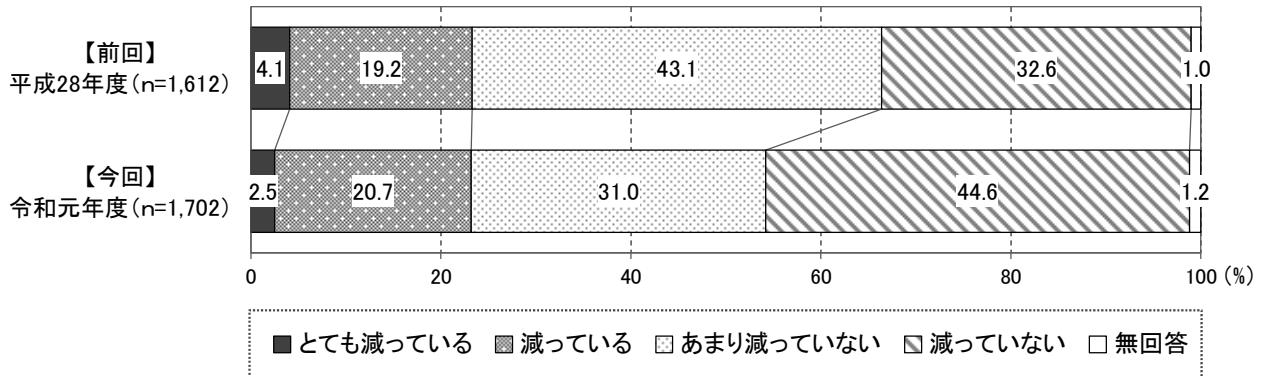
■「週に1回以上は外出しているか」の割合 (前回：問2(6)、今回：問2(6))



「週に1回以上は外出しているか」の割合を見ると、前回調査より今回調査は1.7%の増加となりました。

②外出の頻度が増加した高齢者の割合

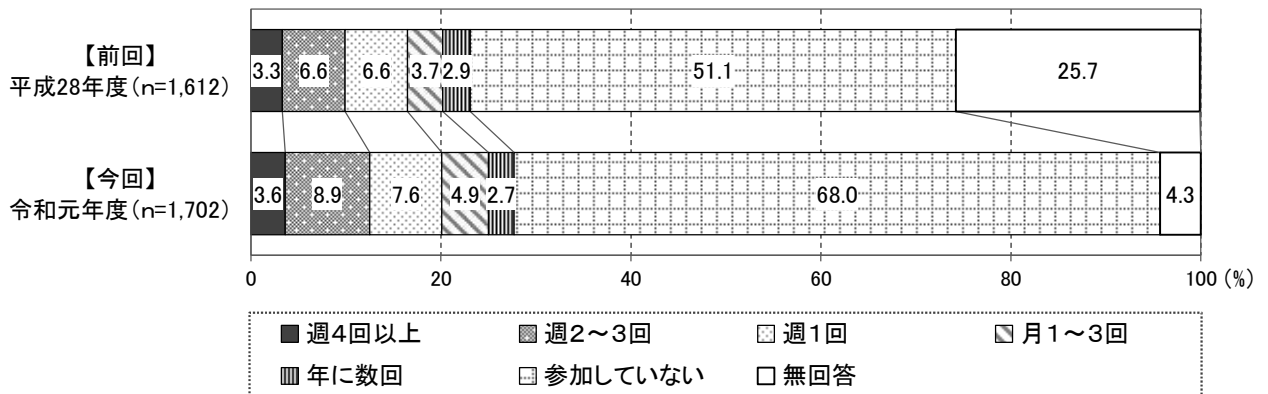
■「昨年と比べて外出の回数が減っているか」の割合（前回：問2（7）、今回：問2（7））



「昨年と比べて外出の回数が減っているか」の割合を見ると、「とても減っている」では、前回調査より今回調査は1.6%の減少、「減っていない」では、前回調査より今回調査は12.0%の増加となりました。

③スポーツ関係のグループやクラブに参加する頻度が増加した高齢者の割合

■スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者の割合
（前回：問5（1）②、今回：問5（1）②）

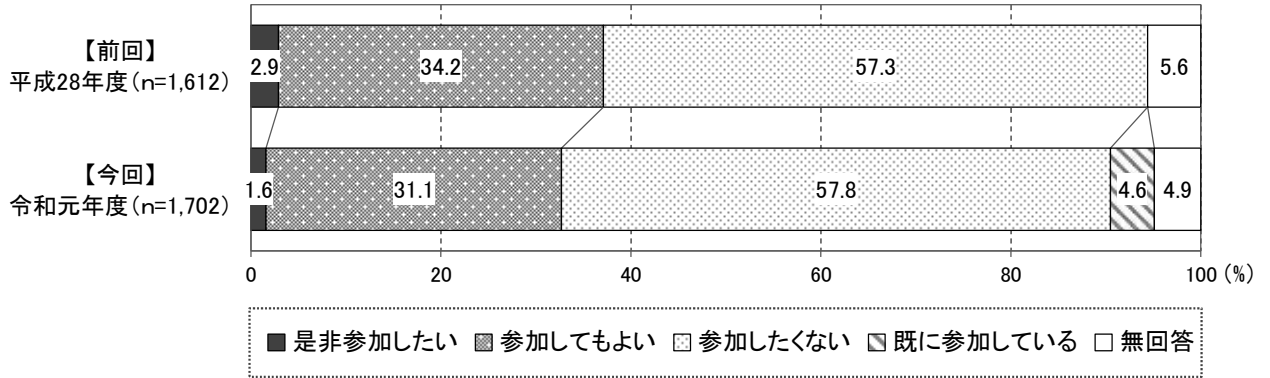


スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者の割合を見ると、週1回以上では、前回調査より今回調査は3.6%の増加、年に数回以上では、前回調査より今回調査は4.6%の増加となりました。

④地域づくりの活動への参加意向のある高齢者の割合

■地域づくりへの企画・運営（お世話役）としての参加意向のある高齢者の割合

（前回：問5（3）、今回：問5（3））



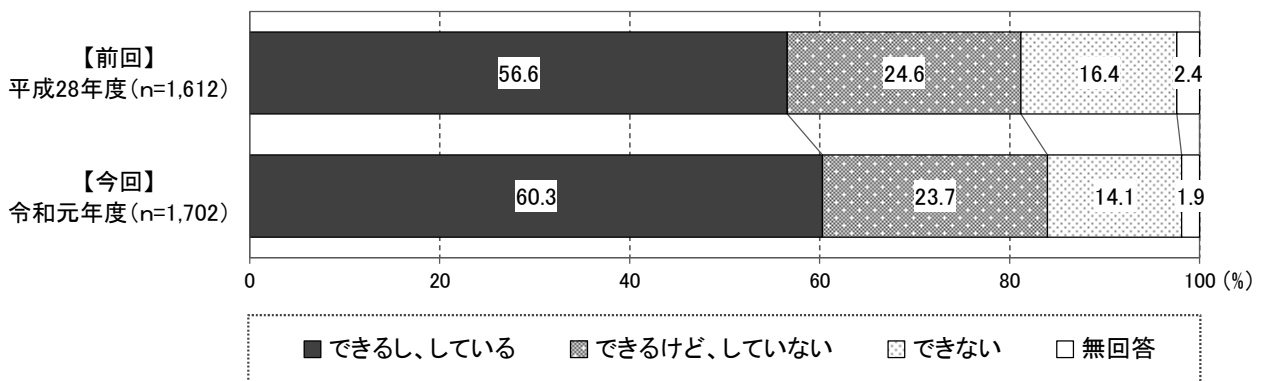
今回調査より「既に参加している」の選択肢が追加されたため一概には言えませんが、「既に参加している」を含む「是非参加したい」+「参加してもよい」の割合は、前回調査と今回調査ではほとんど変わりません。

⑤身体を動かすことに関する高齢者の割合

身体を動かすことに関する以下の項目について、前回調査より今回調査の結果の方が概ね良いことがわかります。

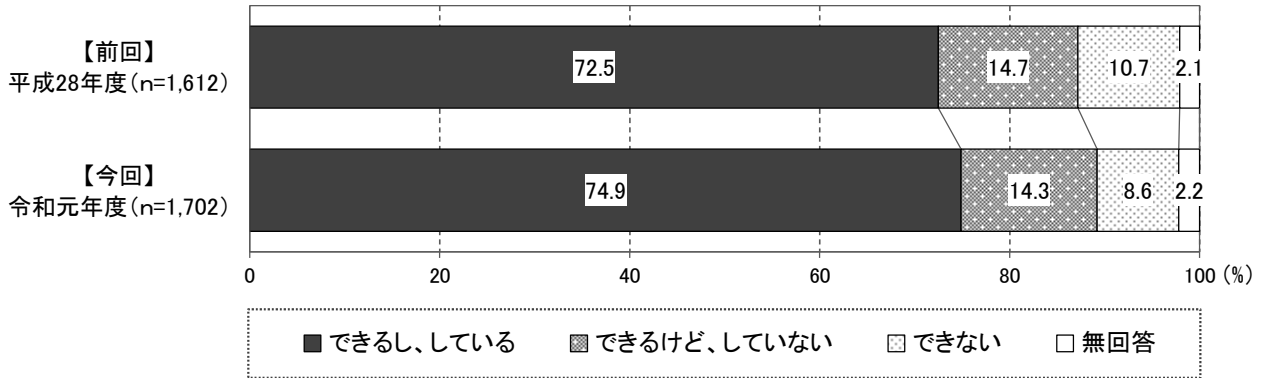
■「階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」の割合

（前回：問2（1）、今回：問2（1））

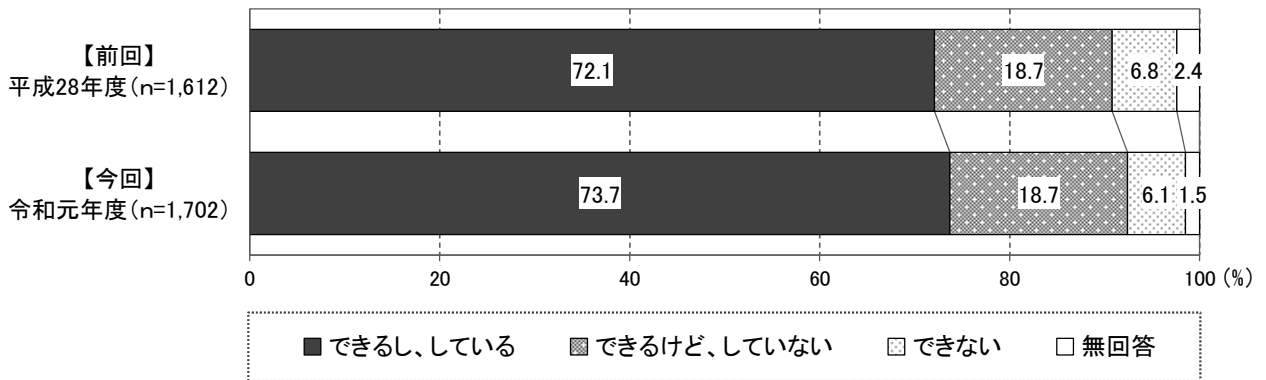


■ 「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか」の割合

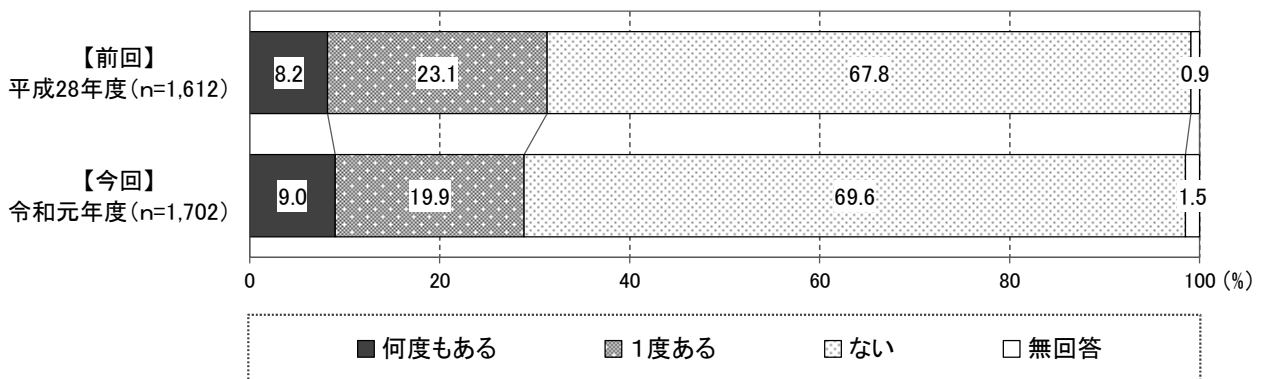
(前回：問2(2)、今回：問2(2))



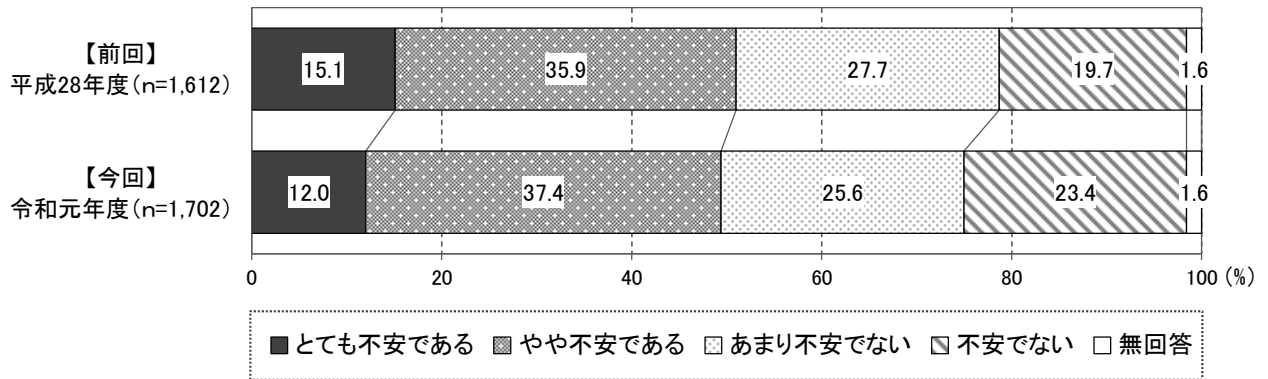
■ 「15分位続けて歩いているか」の割合 (前回：問2(3)、今回：問2(3))



■ 「過去1年間に転んだ経験があるか」の割合 (前回：問2(4)、今回：問2(4))

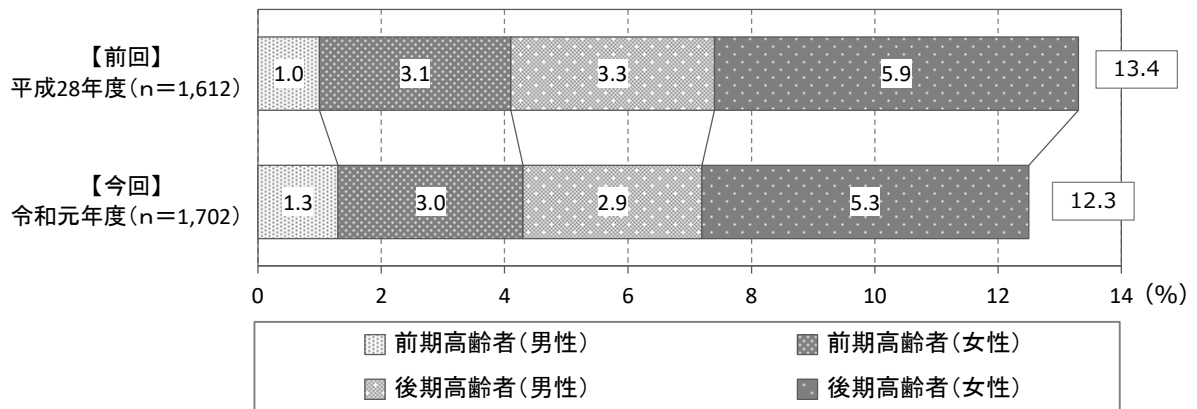


■「転倒に対する不安は大きいか」の割合（前回：問2（5）、今回：問2（5））



⑥運動器機能リスク高齢者の割合

■運動器機能リスク高齢者の割合（リスク判定^(※)結果）



運動器機能リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は1.1%の減少となりました。

※「リスク判定」について

ここでは、地域包括ケア「見える化」システムに登録されている川西町のリスク判定結果を引用しています。リスク高齢者の割合が低いほど良い状況であると判断します。

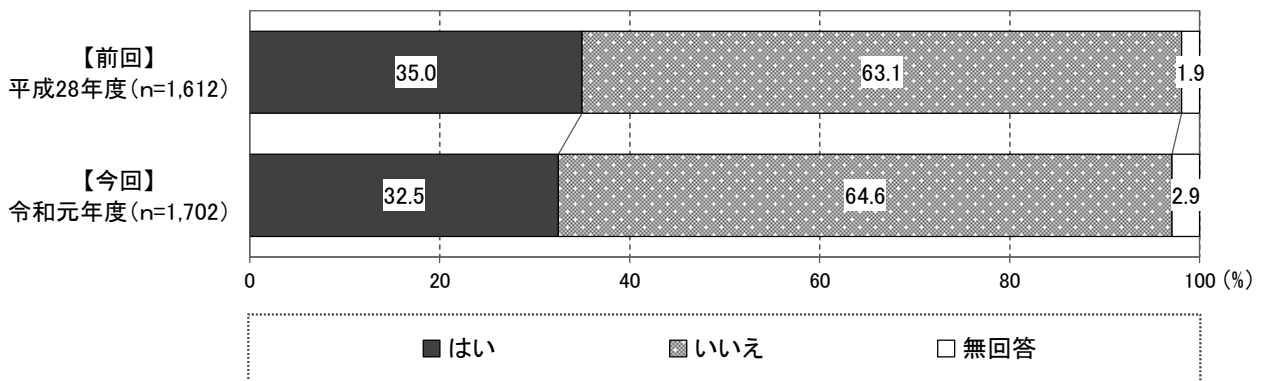
(3) 【中目標2】 口腔・栄養等の身体的状態が保たれているの達成度

【中目標2】 口腔・栄養等の身体的状態が保たれているの達成度ををはかるため、ニーズ調査における次の指標を見ておきます。

① 固いものでも食べることができる高齢者の割合

■ 「半年前に比べて固いものが食べにくくなったか」の割合

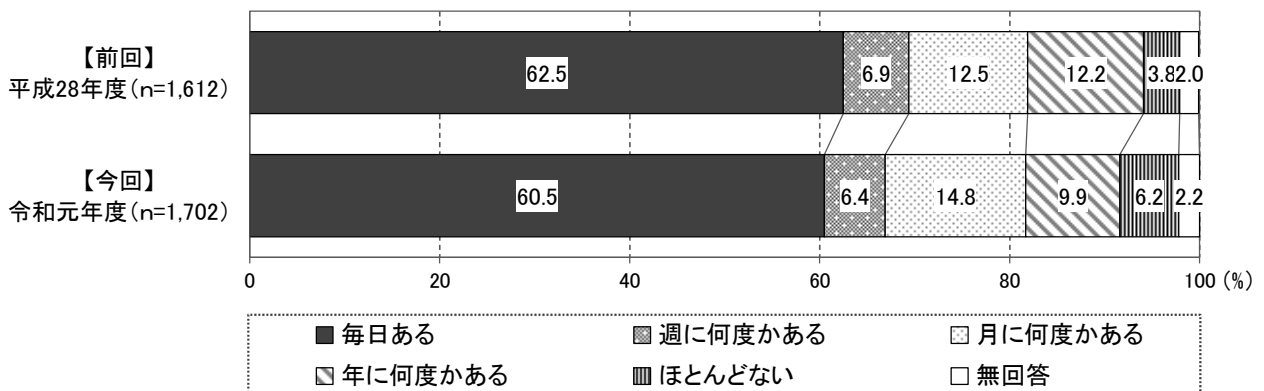
(前回：問3(2)、今回：問3(2))



「半年前に比べて固いものが食べにくくなったか」の割合を見ると、「はい」では、前回調査より今回調査は2.5%の減少となりました。

② 誰かと食事をとにもする機会のある高齢者の割合

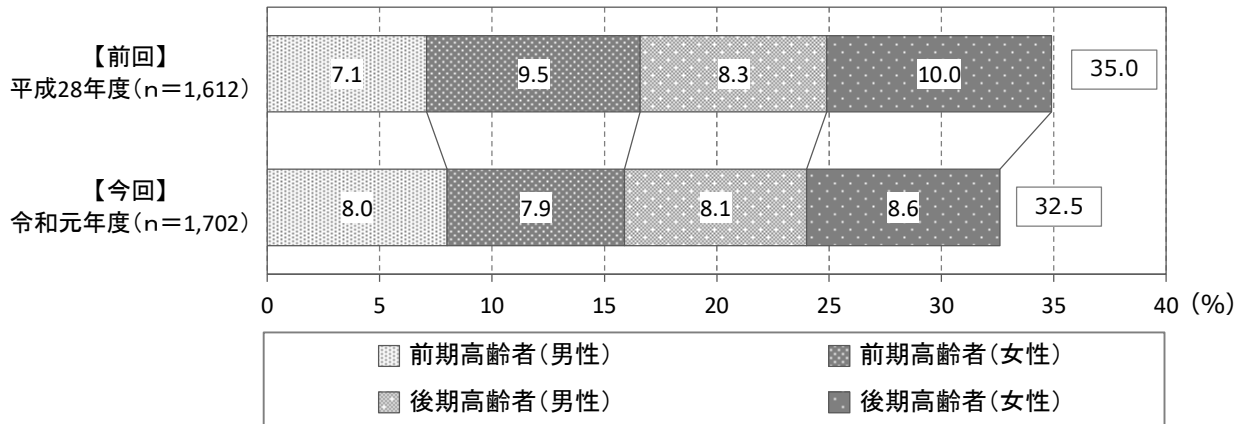
■ 「どなたかと食事をとにもする機会はあるか」の割合 (前回：問3(4)、今回：問3(6))



「どなたかと食事をとにもする機会はあるか」の割合を見ると、「毎日ある」+「週に何度かある」+「月に何度かある」では、前回調査と今回調査はほとんど変わりませんが、「ほとんどない」では、前回調査より今回調査は2.4%の増加となりました。

③咀嚼機能リスク高齢者の割合

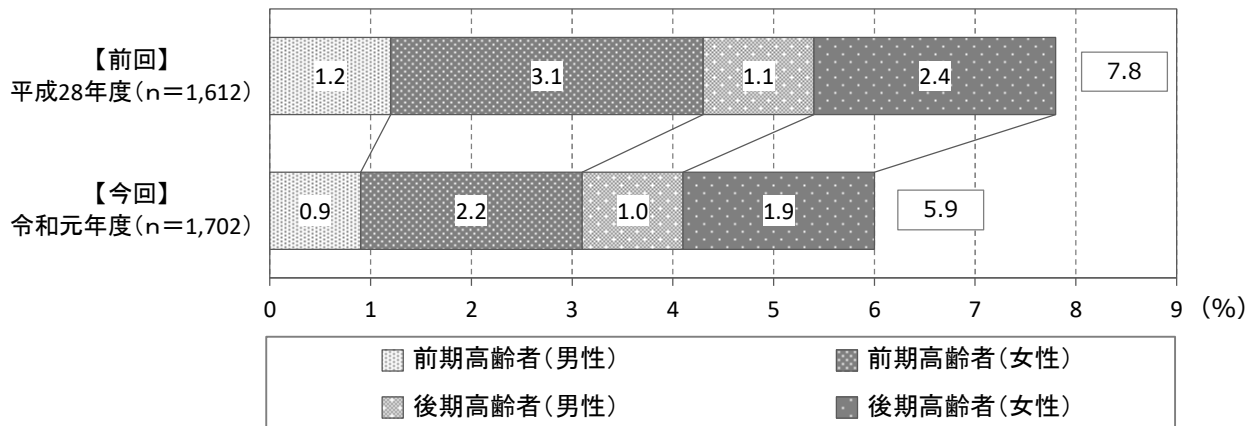
■咀嚼機能リスク高齢者の割合 (リスク判定結果)



咀嚼機能リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は2.5%の減少となりました。

④栄養改善リスク高齢者の割合

■栄養改善リスク高齢者の割合 (リスク判定結果)



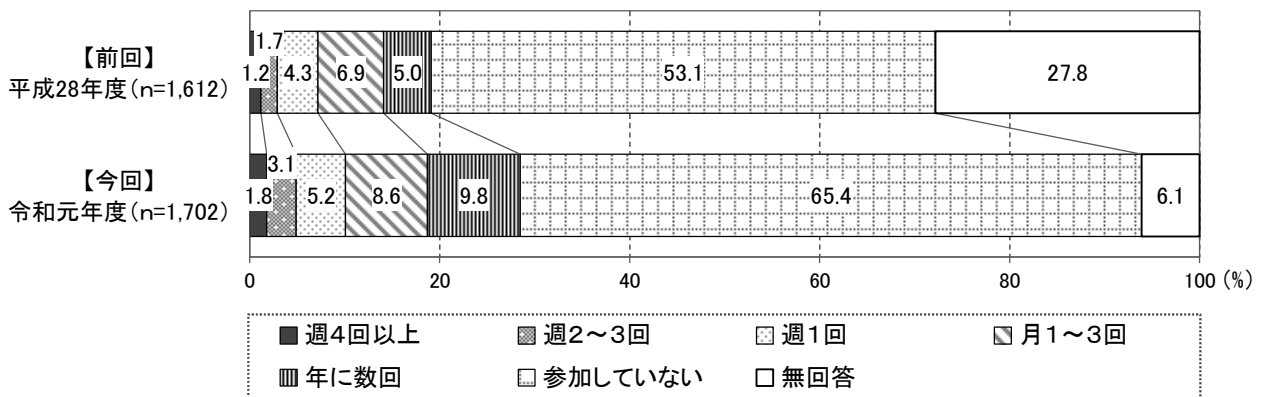
栄養改善リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は1.9%の減少となりました。

(4) 【中目標3】認知症になっても自分らしく地域で暮らしていけるの達成度

【中目標3】ニーズ調査の対象者のうち認知症高齢者がどれほどおられるのかの把握はできないため、達成度をはかる直接の指標設定が難しいのですが、認知症になっても自分らしく地域で暮らしていけるの達成度をはかるため、ニーズ調査における次の指標を見ておきます。

①ボランティア等に参加する高齢者の割合

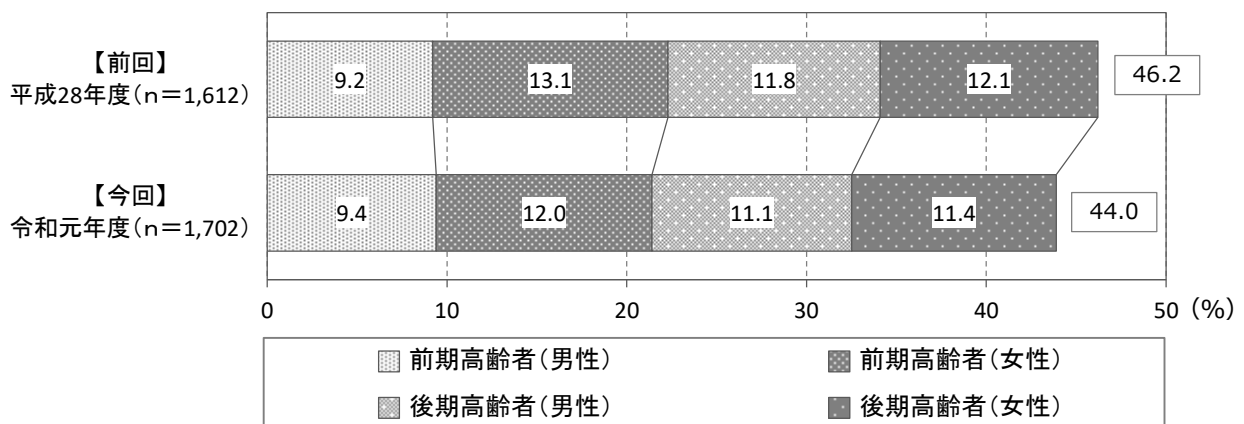
■ ボランティア等に参加している高齢者の割合（前回：問5（1）①、今回：問5（1）①）



ボランティア等に参加している割合を見ると、週1回以上では、前回調査より今回調査は2.9%の増加、年に数回以上では、前回調査より今回調査は9.4%の増加となりました。

②認知症リスク高齢者の割合

■ 認知症リスク高齢者の割合（リスク判定結果）



認知症リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は2.2%の減少となりました。

4. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による達成度のまとめ

- ◇ 大目標について、主観的健康観と主観的幸福感については、前回調査と今回調査ではあまり差は見られませんでした。主観的経済観については「大変苦しい」+「やや苦しい」の割合が前回調査より今回調査の方が増加していることから、町の施策として経済的負担の軽減を図る取り組みが求められます。
- ◇ 中目標1について、外出の頻度やスポーツ関係に参加する頻度が増加していることから、活動的な高齢者が増えていることがうかがえます。また、身体動作について、前回調査より今回調査の方が概ね良くなっていることや、運動器機能リスク高齢者の割合も減少していることから、自立支援や介護予防・重度化防止の取組の効果が現れていると考えられます。
- ◇ 中目標2について、前回調査より今回調査の方が、固い物でも食べることができる割合は増加、咀嚼機能リスク高齢者や栄養改善リスク高齢者の割合は減少していることから、口腔・栄養等の状況は向上していると考えられます。その一方で、誰かと食事をする機会は「ほとんどない」が増加していますが、高齢者ひとり暮らしが今後も増加することが見込まれる中、誰かと食事をする機会の提供を積極的に行うことが求められています。
- ◇ 中目標3について、ボランティア等に参加している高齢者の割合は前回調査より今回調査の方が増加しており、元気な高齢者が認知症サポーターとなって認知症の方を支援する取り組み等を推進できる状況と捉えられます。また、前回調査より今回調査の方が認知症リスク高齢者の割合は減少していることから、認知症施策をさらに推進するとともに、認知症を抑止するための自立支援や介護予防・重度化防止の施策もあわせて推進することが求められます。